

別紙

福祉サービス第三者評価の結果

1 評価機関

名称：特定非営利法人 環境・福祉事業評価センター	所在地： 長野県長野市南高田 2 - 5 - 1 6
評価実施期間： 令和 6 年 7 月 1 日から令和 7 年 1 月 1 5 日	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） 0 5 0 3 0 1 B 2 5 0 0 6 B 1 8 0 5 5	

2 福祉サービス事業者情報（ 令和 6 年 1 1 月現在 ）

事業所名： （施設名）長野市なかじょう保育園		種別： 認定こども園（保育所型）
代表者氏名： 市長 荻原 健司 （管理者氏名）保育・幼稚園課課長 宮下 卓朗		定員（利用人数）： 7 2 名（ 6 名）
設置主体：長野市 経営主体：長野市		開設（指定）年月日： 平成 2 6 年 4 月 1 日
所在地：〒381-3203 長野市中条 2770 番地		
電話番号：026-268-3529		FAX 番号：026-268-3530
電子メールアドレス：naka-jo-hoiku@city.nsgsno.lg.jp		
ホームページアドレス：http://www.city.nagano.nagano.jp/		
職員数	常勤職員： 7 名	非常勤職員 4 名
専門職員	（専門職の名称） 名	
	保育士 6 名	保育士 4 名
	調理員 1 名	
施設・設備 の概要	（居室数）	（設備等）
	乳児室 1 室	・ブランコ
	保育室 2 室	・鉄棒
	調理室 1 室	・雲梯
	事務室 1 室	・砂場
	遊戯室 1 室	

3 理念・基本方針

長野市の理念
子どもの健やかな心身の発達を図り、望ましい未来を作り出す力の基礎を培う。
○ 児童福祉法に基づき、保育を必要とする子どもを保育することを目的とする。
○ 子どもの最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進する。
教育・保育の基本方針
○ 安全で安心できる生活の場を整え、子どもが自己を十分に発揮できるようにします。
○ 専門の資格を持った職員が養護と教育を一体的に行い、子どもの発達を援助します。

- 保護者の気持ちを受け止め、共に子育てをします。
- 家庭と連携を図りながら、子育ての悩みや相談に応じ助言するなど、地域における子育て支援の拠点として、社会的役割を果たします。
- 保育を実践するにあたっては、「全体的な計画」に基づき、一貫性を持って子どもの実態に応じた柔軟な保育を展開します。

保育方針

- 自分のやりたいことに向かって心と体を十分に動かし、健康で安全な生活を作り出す基礎を培います。
- 好奇心や探求心を持って人や物に関わり、試行錯誤しながら最後までやり通す力を育てます。
- 異年齢や地域の方、お年寄りとの交流を深め、人との関わりを持つことを大切にします。
- 満足感や達成感を得られる体験を通し、自信を持ち自分が好きになるようにします。
- 保護者の気持ちを受け止め共に子育てをし、開かれた保育園を目指します。

なかじょう保育園目標

- なかなよしの子ども
友達と元気に遊ぼう。「ありがとう」の気持ちを持ち、自分やまわりを大切にしよう
- かながえる子ども
身近な環境の中でも工夫したり考えたりして遊ぼう
- じょうぶな子ども
健康な生活リズムを身に付けよう。思い切り体を動かそう。おいしくご飯を食べよう

4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

なかじょう保育園は長野市が直接運営する保育園で、前身は旧中条村の村立中条幼稚園として昭和58年に開設された幼稚園である。平成21年2月に村立認可保育所として承認され、同3月に保育所認定こども園設置認可申請した。同時に中条村村立幼稚園が廃止され、同4月に中条村村立認定こども園として保育園機能と幼稚園機能をもつ「なかじょう保育園」として新たに開園した。その後、平成22年1月、中条村と長野市が合併し「長野市認定こども園なかじょう保育園」となり幼稚園と保育園の機能の特徴を持ち合わせ、教育と保育を一体的にできる保育園として現在に至っている。当保育園は認定こども園として保育内容を保育園機能の3歳児未満児、3歳児以上児、幼稚園機能の3つに別けており、保護者の就労の有無と幼稚園の降園時間を15:00とするほかは、ほぼ毎日同じ日課になっている。

当保育園は長野市の郊外の中条地区にあり、戸隠・鬼無里地区、小川村、信州新町地区に接している。園児は中条地区のすめらぎ、中条平、五十里等の11区から通っている。中心部から北寄りの山間地の中条小学校と隣接している。付近には長野市役

所中条支所（旧・中条役場）長野西高校中条分校、中条中学校等がある。長野市街地に通勤する若い世代、祖父母が近くにいた核家族の一戸建世帯があり就労と子育ての両立を支援している。

園は虫倉山の裾野が広がる中山間地域に立地し、周辺には、どんぐり山、神社、お寺、公園、河川等の散歩や探索の場が多くある。令和元年9月には「信州型自然保育（信州やまほいく）」の普及型の認定を受け今年度認定を更新している。虫倉山の山麓に位置する自然豊かな環境の中で、ほぼ毎日園外に出かける散歩が日課となっている。里山の景観に親しみ、昆虫や植物にも触れて、都会では体験できない保育を提供し、様々な体験を通して自分で考える力、自己肯定感を育てている。豊かな自然や施設を利用した散歩等の園外活動を多く取り入れて、知力と体力を高める工夫をしている。

近くの中条小学校へは、卒園後多くの子どもたちが就学している。「地域が学校」という体制を推進しており、保育園、小学校、中学校が連携して一貫して教育に取り組んでいる。保育園から中学校まで同じメンバーの子どもたちが学ぶ中で、職員が代わっても一定のレベルが保証されるシステムになっている。年に数回、年長の子どもたちは、小学生、中学生と交流がある。アプローチカリキュラムに基づき小学校の音楽会や運動会に招かれ、授業参加するなど月1回程度の交流を実施している。また、昨年度より幼児が七二会保育園と月1回交流保育を行い運動遊び、集団遊び、プール遊び等を通して集団での体験をしている。

当園の利用定員は72名だが、今年度は0歳児と2歳児と5歳児の6名を受け入れている。小規模園の特徴を活かした保育が強みである。0歳児1名、2歳児3名のたんぽぽ組、5歳児2名のどんぐり組の2クラスがある。通常の保育に加え入所家庭のニーズに合わせ時間外保育、家庭での保育が一時的に困難な場合にお預かりする一時預かり事業、毎週木曜日、未就園児親子に園開放、育児相談等を行う「おひさま広場」、また、今年度は試行的に実施する保護者の就労条件を問わず、時間単位で柔軟に利用できる「こども誰でも通園制度」のサービスを提供している。保育理念、基本方針、保育方針、園目標の実現に向け、全体的な計画に基づき、一貫性をもって子どもの実態に応じた柔軟な保育を実践している。具体的には年間指導計画、月週の指導計画・個別計画、年間行事計画、食育計画、保健計画や危機管理の計画が作成され2024年度の事業計画にまとめられている。

高齢者交流では、春に高齢者の方に苗の植え方を教えていただき、秋のやきいも会でも交流している。また、地元の中学生、高校生の保育士体験としてボランティア、職場体験を受け入れている。

今年の重点課題は「近隣保育園と交流 保護者と共に考え、進める行事と活動 やまほいくの推進 保・小・中一貫プロジェクト会議の参加と園児、児童の交流を深める 第三者評価の受審による保育の質の向上と職員の意識改革を図る」である。地域の子どもの減少、多様な保護者等の子どもを取り巻く環境の変化に応じ職員と連携を良く取り保育所保育指針に基づき、子どもの心身の状況等に応じて、特定教育・保育を提供している。

令和8年3月31日をもって長野市立中条中学校の閉校が決定した。閉校後の中学校に保育園・小学校施設の機能移転については、集団保育の確保や保護者の意向を踏まえ検討することになっている。

5 第三者評価の受審状況

受審回数（前回の受審時期）	2回（令和元年度）
---------------	-----------

6 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

特に良いと思う点

様々な体験をして自分で考える力、自己肯定感を育む「信州やまほいく」の推進

「信州型自然保育（信州やまほいく）」の普及型の認定を受けている。園舎から外に目を向けた保育が大きな特徴である。園舎の周りには、どんぐりが拾えるどんぐり山等の豊かな自然があり、そのフィールドを十分に活用した保育を行っている。長野市の市街地ではまねのできない環境で保育が行われている。園庭の前には小学校のグラウンドがあり、利用も可能である。さらにその周りは豊かな自然環境が控えている。園児の自主性を尊重し、自由に遊ぶことで、幼児期にしか体験できない時間を過ごすことができ自己肯定感を育てている。現在5歳児は2人で、ほぼ毎日、散歩に出掛けている。散歩コースの一つに宮遺跡がある。職員2人が付き添い、河岸段丘を下って、幹線道路を渡り、河岸段丘を上ると、開けた里山に出る。縄文時代中期の遺跡で、現在は公園として整備されている。2軒の復元住居があり、その周りで遊ぶこともできる。歴史も学べる散歩コースである。

教育と保育を一体的にできる保育園

なかじょう保育園は、中条小学校の校舎の一部にあり、小学校とは通路でつながっていることから、連携は極めて緊密でうまくいっている。中条地区には、保育園、小学校、中学校が一つずつある。3施設が連携して子どもたちを育てるという継続性を重視した取り組みである一貫教育は中条村が平成21年から準備委員会を設け、22年度から本格的にスタートした。「中条保小中連携一貫教育プロジェクト」の名称のもと、6つのプロジェクトのいずれかに全職員が所属して、それぞれの計画に従い、活動を行ってきた。「長野市認定こども園なかじょう保育園」となり幼稚園と保育園の機能の特徴を持ち合わせ、教育と保育を一体的にできる保育園として現在に至っている。保小中の職員間で交流が深まり、一貫教育への意識が高く家庭や地域の理解も深いことから、子どもたちを見る目も変わり「地域が学校である」という体制づくりが実践されてきた。ただ、中学校は来年度に閉校が決まっている。

ドキュメンテーション作りを通じて子どもの成長を応援

なかじょう保育園では、サークルタイムを設けて、子どもの活動を振り返る時間を大切にしてきた。昨年から保育士が作るイメージが強かったドキュメンテーションを子どもと一緒に作成することで、より振り返りの時間を充実させ、一つ一つの体験がより子どもたちの心に残り、興味が深まるように取り組んでいる。りんごの成長に合わせた花の観察から収穫までの体験、カイコの卵からふ化した幼虫の飼育、どんぐり山でのセミの抜け殻探し等に取り組んでいる。体験を通じ絵や字を自分で好きに描く機会が増え、振り返ることで、その時々感覚や視覚がよみがえり、昨年度から取り組んでいるドキュメンテーション作りを通して子どもの成長を応援している。

職場のコミュニケーションがよく取れている

小規模園のため、園長、保育主任、職員のコミュニケーションがとりやすく、全員で、すべての子どもたちを共通理解でき、家庭環境も把握しながら、教育・保育を進めることができている。園では、「ワーク・ライフ・バランス」実現に向けた取り組みを実施し、働き方改革に基づく残業の軽減、有休休暇の計画的取得等の働きやすい職場作りに取り組んでおり、結果として、職場の雰囲気明るく、働きやすい環境は、働く人の満足度を向上させ、職場のコミュニケーションがよく取れている結果につながっている。

特に改善する必要があると思う点

園児減少と集団保育の経験の推進

今年度は、定員 72 名のところ、6 名の子どもとなり、地域の過疎化に伴い子どもの人口が減っている。園では、0 歳児と 2 歳児と 5 歳児が入園しているが、1, 3, 4 歳児がいない状況である。今年の重点課題として近隣保育園との交流を掲げて、七二会保育園や信州新町保育園と定期的に交流し、集団保育の経験ができるよう配慮している。また、小学校との連携を密にしているが、日常の集団保育の意義は、子どもが友だちと過ごす楽しさを知ること・自信を持って生活できるようになること・思いやりの精神を育むことである。園では、集団保育のメリットを生かす取り組みを工夫しているが、引き続き集団保育の経験をする機会を増やしていただくことを期待する。

蛍光灯から LED 化への推進

園舎の照明は蛍光灯が使用されている。近年「水銀に関する水俣条約」、「水銀による環境の汚染の防止に関する法律」等に基づき製造が 2027 年末に中止することが決まっている。理由は、蛍光灯は水銀を含んでおり、環境や健康に悪影響をもたらす可能性があるため、使用することには高いリスクがある。また水銀は、蛍光灯が破損した際に環境に放出される可能性があり、環境を汚染する可能性がある。水銀は人の神経系に悪影響を及ぼし、特に小児や胎児に対して重大な健康リスクを引き起こす可能性も高い。このため、蛍光灯等は産業廃棄物に指定され、廃棄物処理法でも廃棄予定の蛍光管等を保管する場合、保管場所の表示や保護について定められている。使用については問題ないが、環境への配慮、製造が中止されると購入が難しくなる点や、使用電力の削減効果を考慮し今後の建物の利用方法を検討した上で計画的に LED 化されることを期待する。LED 化は、消費電力が少ないことから、長野地域連携中枢都市圏で発出されている二酸化炭素排出ゼロを目指す「ゼロカーボン宣言」の温暖効果ガス削減につながっている。

7 事業評価の結果（詳細）と講評

共通項目（別添 1）

内容評価項目（別添 2）

8 利用者調査の結果

アンケート方式の場合（別添 3 - 1）

9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント（別添４）

（ 令和 7 年 1 月 20 日記載 ）

第三者評価を受審するにあたり、長野市の保育理念・基本方針・マニュアル等に基づき、現状の教育・保育実践を振り返り、職員間で園内研修を行い、改めて共通理解をしました。

評価結果から、違った視点からの意見、気づきにくい部分などの意見があり自己評価での課題を解決するための貴重な良い機会となりました。

なかじょう保育園では小規模園の特徴や周囲の自然環境を活かしながら、一人一人の子どもの成長に寄り添い、保護者や地域の方々の理解、信頼に繋がるように教育・保育の向上に努めていきたいと思います。

また、保護者の皆様にはお忙しいところ、アンケートにご協力をいただき感謝すると共に、皆様からいただいたご意見ご要望については、職員一同で検討し今後の園運営に生かしていきたいと思います。

最後に、第三者という視点で評価していただいた特定非営利法人環境・福祉事業評価センターの皆様に深く感謝申し上げます。